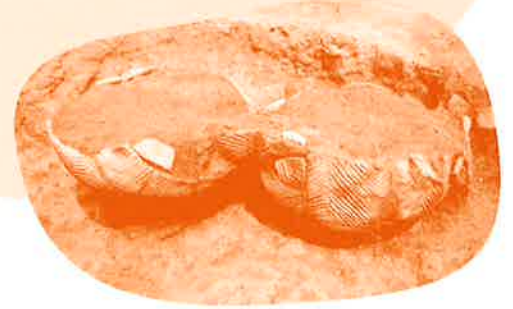


令和元年度

# 富岡市内出土品展



## 展示内容

- 企画展「弥生時代の富岡」
- 宇田・一ノ宮地区遺跡群(古墳・古代)
- 旧瀬岡製糸場(近現代)

## 遺跡説明会

- 9日(日)・16日(日) PM2:00~(創作室)



2020 2/7<sub>金</sub>~16<sub>日</sub>

AM9:30~PM5:00 (10日月は休館日)

富岡市立美術博物館 市民ギャラリー

富岡市黒川 もみじ平総合公園内

入場無料

主催 富岡市教育委員会

# 弥生時代の富岡

## ●はじめに●

特別展示として富岡市で現在までに調査された弥生時代の遺物を紹介します。富岡市では中期初頭から後期末葉にいたる弥生の遺跡が発見されています。

中期前半から中頃では、市内で最も早い中期初頭の再葬墓が確認された中里原遺跡を中心に、七日市観音前遺跡や、中期中頃の住居跡が確認された深町詰遺跡の遺物を展示します。

中期後半では、環濠集落が発見された黒川小塚遺跡を中心に、同じく集落跡の上高田社宮子原遺跡の遺物を展示します。いずれも現在の長野県地域の影響を強く受けた遺物たちです。

後期では、後期から古墳時代前期にかけての集落が確認された阿曾岡・権現堂遺跡、環濠集落が確認された上丹生屋敷山遺跡、丘陵上の大規模集落として国指定史跡に登録されている中高瀬観音山遺跡、青銅製の銅戈を出土した八木連西久保遺跡の遺物を展示します。

ここでは各時期の代表的な遺跡を紹介します。

## なかざとほらいせき 中里原遺跡

平成25年5月から9月にかけて、松義中部地区農地整備事業に伴い発掘調査をしました。遺跡は高田川北側、安中市(旧松井田町地区)との境界に当たる段丘上に位置し、縄文時代中期から弥生時代の遺構・遺物、古代の大溝跡が出土しました。

中期初頭の再葬墓が13基確認されました。中でもY-1号土坑からは、東海地方から搬入されたと思われる壺が2点並んで出土しました。またY-3号土坑からは県内在地の土器が出土し、搬入土器と在地土器がともに使用されていた状況が伺える貴重な発見となりました。



Y-1号土坑遺物出土状況

## くろかわこづかいせき 黒川小塚遺跡

黒川小塚遺跡は、富岡市の中央部、鎗川によって形成された下位段丘左岸の高田川と丹生川との合流地点の黒川地区、国道254号線バイパス沿いに位置します。これまで計4回発掘調査を実施し、縄文時代から中世にかけての集落跡が確認されました。

このうち3回の発掘調査で弥生時代の遺構や遺物が発見されています。注目すべき点は、今から約2,000年前の弥生時代中期の集落跡が発見されたことです。集落跡は環濠に囲まれ、竪穴住居跡が10軒以上あったことが確認されています。また、これらの住居の多くが火災に遭っていることもわかりました。この集落内に広く分布する土坑からは、炭化した稲粃が出土しており、粃の貯蔵施設だったと想定されます。このことから、この時代の富岡地域では既に稲作が行われていたと考えられます。



火災に遭った弥生時代中期の竪穴住居跡

うだ いちのみやちく いせきぐん  
宇田・一ノ宮地区遺跡群  
いちのみやながさかいせき  
(一ノ宮長坂遺跡)

あそおか ごんげんどう いせき  
阿曾岡・権現堂遺跡

阿曾岡・権現堂遺跡は、平成5年度及び6年度に県営ほ場整備事業に先立ち発掘調査を実施しました。遺跡は富岡市宇田地内にあり、高田川とその支流の丹生川の合流地点の西側に位置します。調査は丘陵である阿曾岡地点と阿曾岡の北側に広がる下位段丘面の畑地である権現堂地点、それぞれで行いました。

阿曾岡地点では、弥生時代後期の竪穴住居跡が58軒検出されましたが、ほとんどが丘の東半分から検出されました。住居跡は、長軸7m以下の大きさが半数以上で、また焼失住居を15軒検出しました。出土遺物から大きく4期に分けられます。樽式土器のみ出土が40軒、樽式土器と赤井戸式系統の土器が混在しているのが9軒、赤井戸系統の土器のみ出土した住居跡2軒、樽式あるいは赤井戸系統の土器に土師器を伴う住居跡が7軒でした。また北陸系や東海系と考えられる土器も出土しています。

権現堂地点では、弥生時代中期は竪穴住居跡4軒、溝2条、土坑1基が検出され、弥生時代後期では竪穴住居跡31軒が検出されました。中期は、溝の内側から住居跡と土坑が検出されています。後期の住居跡は、環濠集落と同じ区域内から25軒が検出されたほか、別の区域からも検出されています。

阿曾岡・権現堂遺跡では、古墳時代前期の遺構も検出されています。阿曾岡地点では住居跡が4軒、丘の西側から検出されたほか、権現堂地点では15軒の住居跡が検出されました。また阿曾岡の丘陵縁辺部には、前方後方墳が2基確認できたほか、方形周溝墓が1基検出されています。



阿曾岡地点東側全景

丹生川右岸に位置しています。令和元年5月～11月にかけて発掘調査を実施し、古墳時代から古代にかけての集落跡等を確認しました。

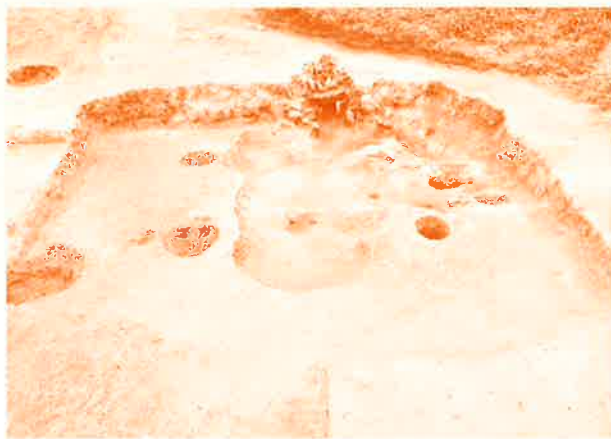
■古墳時代

約1300年前頃の古墳時代後期の竪穴住居跡6軒を確認しました。いずれの竪穴住居跡も、白色粘土を用いたカマドを北壁に構築する共通性があり、ほとんどで4本支柱穴が確認されています。33・46号住居跡では、滑石製模造品未成品や剥片が出土しており、滑石製模造品製作が小規模ながら行われていたと考えられます。

■古代

約1200年前から約1000年前にかけての平安時代の竪穴住居跡54軒を確認しました。竪穴住居跡やカマドの方位は北東向きが多く、時期が新しくなると南東寄りになる傾向がみられます。

また、竪穴住居跡より古い時期の2間×3間の掘立柱建物跡が確認されています。規模は、南北約5.5m、東西約3.5mで、主軸方向はほぼ真北を向いています。



平安時代の竪穴住居跡

その他、礎石を伴う基壇跡が確認されています。礎石の石列は本来約4.0m四方の方形だったと考えられます。基壇内から文字を刻んだ紡錘車や土師器、須恵器が出土しました。

このように、本遺跡からは古代の様々な遺構を確認することができました。

# し せききゆうとみおかせい し じょう 史跡旧富岡製糸場

## ■近代

本年度は、主に西置繭所西側、蚕種製造所入口、乾燥場・繭扱場などを調査しています。

## ■西置繭所西側

創業当初にはすでにあったといわれていた土塁状の遺構を調査しました。その結果、数度の盛り土が行われた複雑な過程を経て現在の遺構になっていることがわかりました。

## ■蚕種製造所入口

外竈とその掘り方を確認しました。掘り方は全体で幅約6mと推定され、非常に大きな掘り込みを設けて外竈を設置していたことが確認できました。

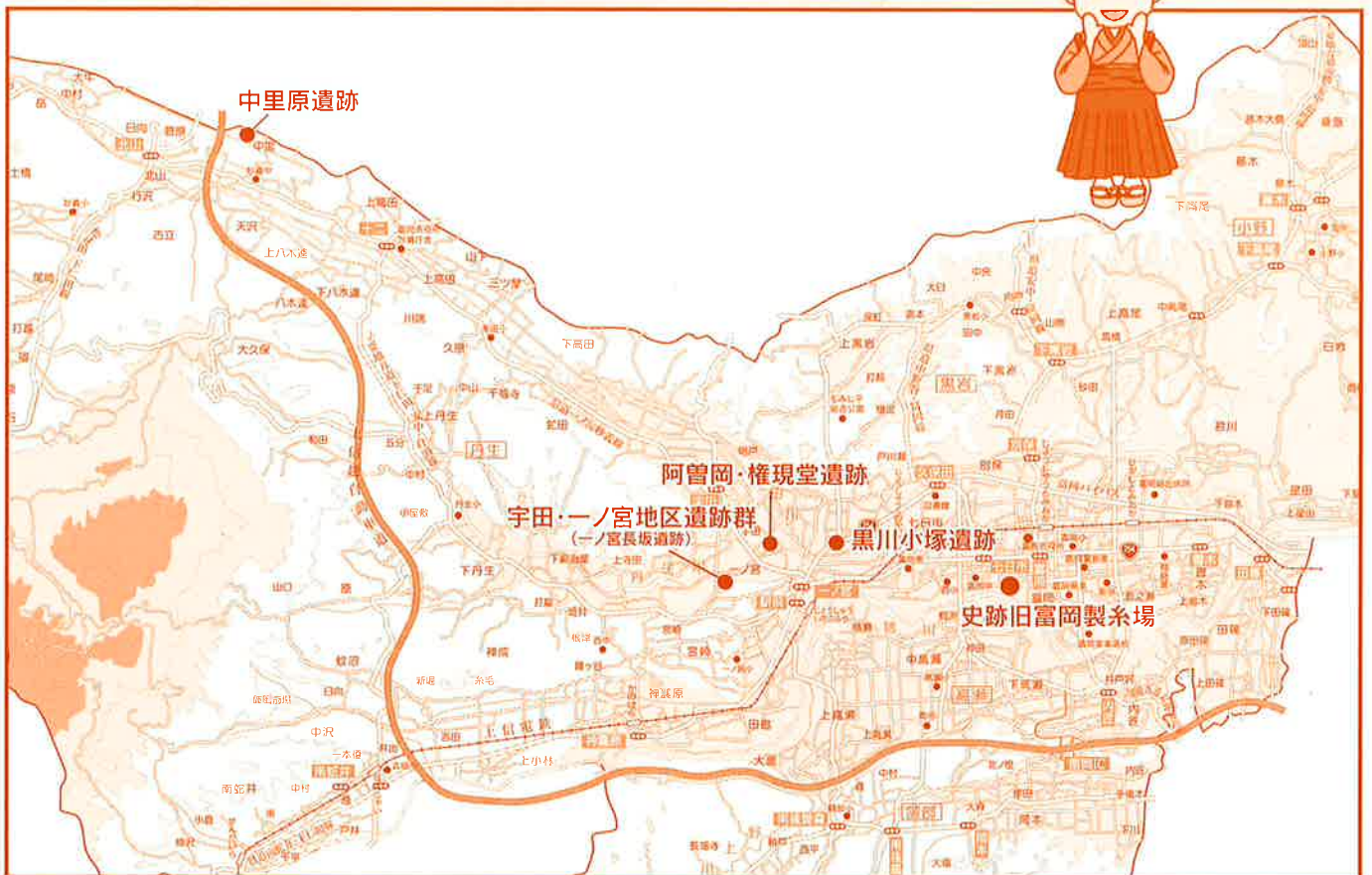
## ■乾燥場・繭扱場

昨年度確認された溝状遺構の西側に、切石を取り外した痕跡が確認できました。一対になっており、この両側に部屋があり何らかの施設であることが推定されます。



繭扱場切石列と、切石抜き取り痕跡

## 遺跡の位置



富岡市教育委員会 文化財保護課

TEL 0274-62-1511(内線2134)